

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3904404号

(P3904404)

(45) 発行日 平成19年4月11日(2007.4.11)

(24) 登録日 平成19年1月19日(2007.1.19)

(51) Int. Cl.

F I

H O 4 M 9/00 (2006.01)

H O 4 M 9/00 D

G O 8 B 25/04 (2006.01)

H O 4 M 9/00 H

H O 4 M 11/00 (2006.01)

G O 8 B 25/04 H

H O 4 Q 9/00 (2006.01)

H O 4 M 11/00 3 O 1

H O 4 Q 9/00 3 O 1 D

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-107960 (P2001-107960)
 (22) 出願日 平成13年4月6日(2001.4.6)
 (65) 公開番号 特開2002-305597 (P2002-305597A)
 (43) 公開日 平成14年10月18日(2002.10.18)
 審査請求日 平成16年6月25日(2004.6.25)

(73) 特許権者 000100908
 アイホン株式会社
 愛知県名古屋市熱田区神野町2丁目18番地
 (73) 特許権者 000227401
 日東工業株式会社
 愛知県愛知郡長久手町蟹原2201番地
 (74) 代理人 100078101
 弁理士 綿貫 達雄
 (74) 代理人 100085523
 弁理士 山本 文夫
 (72) 発明者 神谷 喜生
 愛知県名古屋市熱田区神野町2丁目18番地
 アイホン株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 住宅監視システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

各種計測装置を接続した分電盤と、各種計測装置の計測結果を表示できる表示部及び操作部を備えたインターホンと、前記インターホン及び分電盤間で信号を送受する伝送手段とを備え、前記インターホンの操作部は、各種計測装置の計測結果である表示部の表示内容の切替が可能であるとともに、分電盤の制御部に接続した各種計測装置への設定情報を、伝送手段を介して分電盤の制御部に入力可能なものであることを特徴とする住宅監視システム。

【請求項 2】

インターホンの操作部は各種計測装置に優先順位を設定可能であり、インターホンに内蔵された制御部は記憶手段に計測結果を記憶するとともに、優先順位に従って信号を処理することを特徴とする請求項 1 に記載の住宅監視システム。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インターホンを用いた住宅監視システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

住宅に設置されている分電盤には、電力、過電流、漏電等の計測センサが内蔵されており、その計測結果の表示やそれに基づく警報が行なえるようになっている。しかしこれらの

20

表示等はいつも人が居る居間等から離れた場所に設置されている分電盤の内部で行なわれているため、計測結果の表示や警報に接するには分電盤のところまで見に行かねばならず、警報に気付かない場合もあった。

【 0 0 0 3 】

一方、ガス漏れ、火災等の検出装置に接続して警報を発したり、ガス・水道の積算流量計等の各種計測装置を接続してそれらの積算値を表示させたり、使用料金を表示させたりする住宅情報盤と、居間や台所などに設置されているインターホンとを組み合わせることも行われている。

【 0 0 0 4 】

しかしこのような住宅情報盤を用いても、従来は各種計測装置の設定変更はそれぞれの計測装置の設置場所にて行わなければならなかった。この設定とは例えば契約容量の設定、電力使用量に関する警告値の設定、電力料金積算値の設定、計測装置で用いられる時刻の設定等である。また、従来の住宅情報盤はガス漏れ、火災等の検出装置やガス・水道の積算流量計等の各種計測装置に接続されているため、一度設置するとその後に移設することが容易ではなく、また無線化も困難であった。

【 0 0 0 5 】

【 発明が解決しようとする課題 】

本発明は上記した従来の問題点を解決し、居間等に設置されたインターホンを利用して、電気関係の表示や警報のみならず電力、ガス、水道その他の各種計測装置の表示や積算料金を知ることができ、しかも各種計測装置の設定変更も行なうことができる住宅監視システムを提供するためになされたものである。また本発明の他の目的は、インターホンの移設や無線化が容易である住宅監視システムを提供することである。本発明の更に他の目的は、分電盤やインターホンが複数個存在する場合にも、上記の操作や表示を適確に行なわせることができる住宅監視システムを提供することである。

【 0 0 0 6 】

【 課題を解決するための手段 】

上記の課題を解決するためになされた本発明の住宅監視システムは、各種計測装置を接続した分電盤と、各種計測装置の計測結果を表示できる表示部及び操作部を備えたインターホンと、前記インターホン及び分電盤間で信号を送受する伝送手段とを備え、前記インターホンの操作部は、各種計測装置の計測結果である表示部の表示内容の切替が可能であるとともに、分電盤の制御部に接続した各種計測装置への設定情報を、伝送手段を介して分電盤の制御部に入力可能なものであることを特徴とするものである。なお、インターホンの操作部は各種計測装置に優先順位を設定可能であり、インターホンに内蔵された制御部は記憶手段に計測結果を記憶するとともに、優先順位に従って信号を処理するものであることが好ましい。

【 0 0 0 7 】

本発明の住宅監視システムにおいては、各種計測装置が接続された分電盤とインターホンとを伝送手段を介して接続し、インターホンの表示部に各種計測装置の計測結果を表示できるのみならず、インターホンの操作部から表示部の表示内容の切替を行うことができるとともに、各種計測装置の設定変更を行なうことができる。すなわち、インターホンの操作部から分電盤に対して信号を送ってこの分電盤に接続されている各種計測装置の設定を変更することができ、また各種計測装置の出力信号を要求して表示部の表示内容の切替を行なうこともできる。従って、住人は居間等に設置されているインターホンの表示部を通じて住宅に設置された各所計測装置から必要情報を得ることができるとともに、インターホンから全ての操作を行なうことができる。

【 0 0 0 8 】

【 発明の実施の形態 】

以下に本発明の好ましい実施の形態を示す。

図 1 は本発明の住宅監視システムの外観図であり、1 は分電盤、2 はインターホンである。分電盤 1 には、電力計測装置、積算電力計、電圧・電流検出器、漏電検出器、過電流検

10

20

30

40

50

出器、力率測定器等を内蔵させることができる。またこの分電盤 1 には、ガスセンサ 3、煙センサ 4、熱センサ 5、ガス量計 6、水道計 7 などの各種計測装置の少なくとも一つが接続されている。このほか、侵入者感知装置、時計、電気、ガス、水道等の料金計算器などを接続してもよい。なお、図 1 では各種計測装置を分電盤 1 の制御部 8 に直接接続したが、途中にセンサー盤を設けて各種計測装置を接続し、センサー盤と分電盤とを伝送手段で接続してもよい。

【 0 0 0 9 】

インターホン 2 と分電盤 1 とは、双方向に信号を送受することができる伝送手段 9 によって接続されている。伝送手段 9 は有線・無線のいずれであってもよいが、図 1 ではインターホン 2 と分電盤 1 との双方に伝送制御部を設け、それらの間を伝送線 10 によって接続している。

10

【 0 0 1 0 】

インターホン 2 は表示部 11 と操作部 12 とを備えている。表示部 11 は例えばテレビ画面であって、インターホン 2 が玄関等に設置された子機 13 と通話中には訪問者の映像を映すものであるが、非通話中には各種計測装置の計測結果を表示することができる。

【 0 0 1 1 】

例えば分電盤 1 内で計測されたリアルタイムの電力消費量を表示させたい場合には、インターホン 2 の操作部 12 を人が操作して表示切替えを行うと、インターホン 2 の制御部 14 から要求信号が出力されて分電盤 1 の制御部 8 に伝送され、制御部 8 に接続された電力計からリアルタイムの電力消費量の信号が伝送手段 9 を介して返信される。返信信号が正常に届いた場合には肯定信号が制御部 14 から制御部 8 へ送られるとともに、インターホン 2 の表示部 11 にリアルタイムの電力消費量が表示される。

20

【 0 0 1 2 】

このほか分電盤 1 の情報としては、月単位の積算電力量、週単位の積算電力量、日単位の積算電力量、ピーク電力量、電力警告設定値等があり、これらはインターホン 2 の操作部 12 を操作して表示切替えを行うことにより、表示部 11 に表示される。また同様の操作により、分電盤 1 の制御部 8 に接続されているガスセンサ 3、煙センサ 4、熱センサ 5、ガス量計 6、水道計 7 などの各種計測装置の計測結果も表示部 11 に表示させることができる。

【 0 0 1 3 】

なお、操作部 12 を人が操作して表示部 11 の表示内容を切り替えるほか、各種計測装置の表示内容を自動切替えするように操作部 12 から設定しておくこともできる。もちろん、警告出力があるときには他の情報を表示中であっても自動切替えにより警告表示を行うことが好ましい。

30

【 0 0 1 4 】

また、上記のようにインターホン 2 の操作部 12 を操作して表示切替えを行うことによって、分電盤 1 の制御部 8 からは各種データがインターホン 2 に送信されてくるが、切替えを頻繁に行うと伝送装置が飽和してしまうおそれがあるため、インターホン 2 には重要度の低い各種データを短略化して伝送することが好ましい。例えば、電気、ガス、水道の使用量を「大」、「中」、「小」を意味する「F」、「M」、「S」等の一文字のデータに置き換えて送信し、インターホン 2 の表示部 11 には使用量「大」、「中」、「小」のみをリアルタイムに表示する。このようにすれば、伝送装置に負担をかけず使用状態をリアルタイムに表示することができる。実際の使用量を表すデータは比較的長い時間間隔で送ればよい。

40

【 0 0 1 5 】

なお、上記した各種計測装置は分電盤 1 の制御部 8 に接続されているが、各入力部にディップスイッチ等によりアドレスを設定し、計測装置の増設に対応できるようにしておくことが好ましい。

【 0 0 1 6 】

また本発明においては、分電盤 1 の制御部 8 に接続した各種計測装置への設定情報をイン

50

ターホン 2 の操作部 1 2 から入力できるようにしておく。具体的には使用電圧、線様式、ブレーカの定格電流、カレンダーの設定、時刻設定等である。また月、週、日単位の電力警告を行う値の設定、月毎の電力積算の開始日の設定、電力料金積算値の設定などの料金関係の設定も含まれる。これによって、従来のように各種計測装置の設置場所まで行かなくても、設定情報の入力が可能となる。

【 0 0 1 7 】

さらに、インターホン 2 の操作部 1 2 は各種計測装置に優先順位を設定可能であり、インターホン 2 に内蔵された制御部 1 4 は、記憶装置に計測結果を一時的に保持し、優先順位に従って信号を処理することが可能である。すなわち、一定時間内にインターホン 2 が受信した信号は、その計測結果を記憶装置に一時的に保持し、制御部 1 4 は一定時間間隔で優先順位に従ってより緊急度の高い信号を表示し処理するものである。例えば、過電流警報と煙センサーからの警告信号では、より緊急度の高い煙センサーからの警告信号をインターホンに表示し、図示しないスピーカより警報を発するものである。また、優先順位は使用者および使用状況によって異なるため、インターホンの操作部より設定することができる。

10

【 0 0 1 8 】

上記の説明では単一の分電盤 1 と単一のインターホン 2 が接続されていたが、分電盤 1 やインターホン 2 が複数個存在する場合には、インターホン 2 及び分電盤 1 に固有の装置識別番号を持たせ、信号を送信する時に装置識別番号を同時に送信する。これにより 1 つのインターホン 2 で別の場所にある複数の分電盤 1 , 1 の状態を操作、監視でき、また重要な分電盤 1 については、複数の場所からインターホン 2 により操作、監視できるようになる。

20

【 0 0 1 9 】

図 2 は上記の機能を得るための内部構成の一例を示す図である。

分電盤 1 の内部には従来と同様に電流制限器 2 1、主幹ブレーカ 2 2、分岐ブレーカ 2 3 等が配置されているほか、不揮発メモリ 2 4、デジタル出力部 2 5、アナログ入力部 2 6、デジタル入力部 2 7、双方向インターフェイス 2 8 を備えた伝送制御部 2 9 が設けられている。これらは前記した制御部 8 を構成するものである。

【 0 0 2 0 】

デジタル出力部 2 5 には、電灯等の負荷 3 0 が電源供給線 3 1 を介して接続されている。アナログ入力部 2 6 には、分電盤内部の電圧情報、負荷電流検出器 3 2 により検出された負荷電流情報、主幹ブレーカ 2 2 の警報スイッチ 3 3 により検出された警報情報などが入力されている。デジタル入力部 2 7 には、各所計測機器からの計測値が入力されている。これらの情報は伝送制御部 2 9 から伝送線 1 0 を介してインターホン 2 の伝送制御部 3 4 に送信され、また逆にインターホン 2 からの信号を受信することができる。

30

【 0 0 2 1 】

図 3 ~ 図 5 はインターホン 2 の表示部 1 1 の表示例を示す図である。図 3 は子機 1 3 との通話が行われていない状態において、電気、ガス、水道等の使用量を自動表示するもので、 1 は 1 日の使用電力料金の表示、 2 は 1 月毎の使用電力料金、ガス料金、水道料金の表示、 3 は積算電力料金、ガス料金、水道料金の表示、 4 は昨年の月別使用電力量の表示、 5 はグラフによる節電お知らせの表示、 6 は現在の使用電力が許容限界の何 % 程度であることを示す停電お知らせの表示である。これらの 1 ~ 6 の内容は、自動的にまたは操作部 1 2 からの操作により切り替えて表示される。図 4 は各種計測装置が異常を検知したときの表示例であり、図 5 は非常時における連動出力の表示例である。これらの非常時の表示は割り込み信号により優先表示される。

40

【 0 0 2 2 】

【 発明の効果 】

以上に説明したように、本発明の住宅監視システムによれば、インターホンの表示部に各種計測装置の計測結果を表示するため、人が居る可能性の高いところで電気、ガス、水道等を監視することができ、省エネの意識を喚起することができる。またインターホンから

50

各種計測センサーの設定変更が可能であるので、従来のように各種計測装置の設置場所まで行って設定情報を入力する必要がない。さらに、各種計測装置に優先順位を付与できるため、緊急度の高い信号の順に処理することができる。また分電盤に各種センサーを全て接続したため、インターホンの移設が容易である上、インターホンを実線化し携帯することが可能となる。更に複数の分電盤の状態を1つのインターホンで監視することが可能となり、また1つの分電盤を複数のインターホンで監視することも可能となる等の多くの利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態を示す住宅監視システムの外観図である。

【図2】本発明の実施形態を示す内部構成図である。

10

【図3】平常時における表示部の表示例を示す図である。

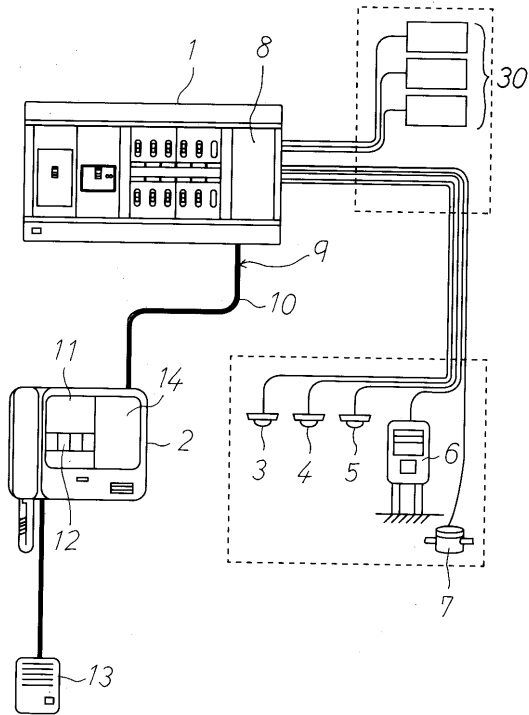
【図4】各種計測装置が異常を検知したときの表示例である。

【図5】非常時における連動出力の表示例である。

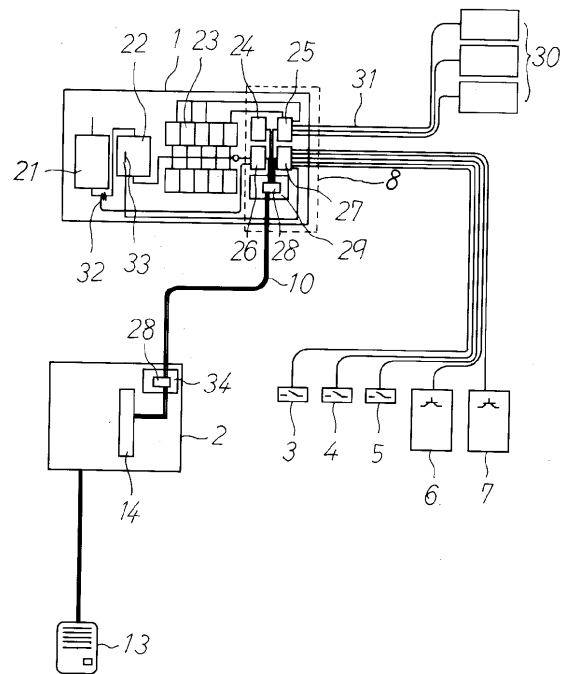
【符号の説明】

- | | | |
|----|--------------|----|
| 1 | 分電盤 | |
| 2 | インターホン | |
| 3 | ガスセンサ | |
| 4 | 煙センサ | |
| 5 | 熱センサ | |
| 6 | ガス量計 | 20 |
| 7 | 水道計 | |
| 8 | 分電盤の制御部 | |
| 9 | 伝送手段 | |
| 10 | 伝送線 | |
| 11 | インターホンの表示部 | |
| 12 | インターホンの操作部 | |
| 13 | インターホンの子機 | |
| 14 | インターホンの制御部 | |
| 21 | 電流制限器 | |
| 22 | 主幹ブレーカ | 30 |
| 23 | 分岐ブレーカ | |
| 24 | 不揮発メモリ | |
| 25 | デジタル出力部 | |
| 26 | アナログ入力部 | |
| 27 | デジタル入力部 | |
| 28 | 双方向インターフェイス | |
| 29 | 分電盤の伝送制御部 | |
| 30 | 負荷 | |
| 31 | 電源供給線 | |
| 32 | 負荷電流検出器 | 40 |
| 33 | 警報スイッチ | |
| 34 | インターホンの伝送制御部 | |

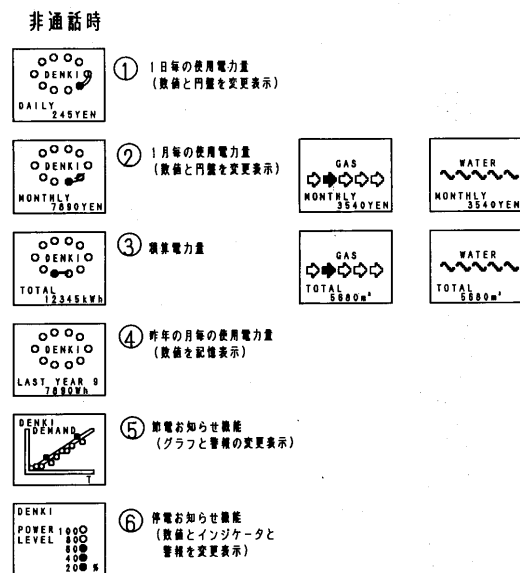
【図 1】



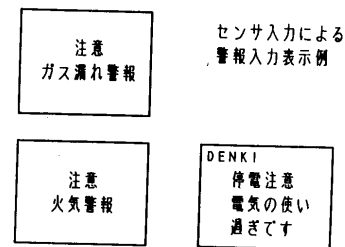
【図 2】



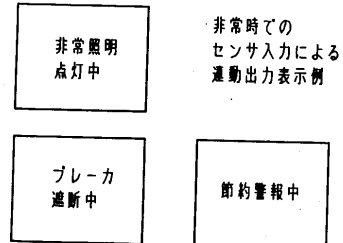
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(72)発明者 加藤 浩久
愛知県日進市南ヶ丘3丁目3番地の7

審査官 西脇 博志

(56)参考文献 特開平11-225438(JP,A)
特開平11-296771(JP,A)
特開平02-036693(JP,A)
実開昭60-025310(JP,U)
特開平11-296769(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

H04M 9/00 - 9/10
H04M 11/00 - 11/10
H04Q 9/00 - 9/16
H03J 9/00 - 9/06
G08B 23/00 - 31/00